

音楽、ダンス、大道芸……

# プロが病院訪問

い。

SHJは、代表理事の松本恵里さん(57)が院内学級の英語教員をしていた時、療養生活中の子どもたちが芸術活動で見せる笑顔に引かれたのをきっかけに、2012年、神奈川県奈川県の病院で定期的な訪問活動を始めた。

音楽やダンス、大道芸などそれぞれの道でプロ活動している人たちを募って各地で登録し、地元病院などを中心に訪問活動を展開している。

ある病院では、ピアノストやバイオリンストが、闘病でフルートの習い事を途中で諦めざるを得なかった子どもと即興のセッションに応じた。

松本さんは「子どもたちを上手に巻き込み、本格的でダイナミックなアートを届ける術はプロならではの。子どもたちが誇りを持つ時間にもなっている」と感じる。

賛同するプロアーティストの輪も各地に生まれ、9月現在、北海道から福岡まで45の病院や障害児施設が活動場所となった。来年には沖縄にも広がる予定で、松本さんは「全国の病院や障害者施設に広げたい」と話している。

# 本格アートの闘病の子激励

小児科病棟や重症障害児施設をプロのアーティストが訪ね、本格的な音楽やマジック、ダンスを届ける東京の認定NPO法人「スマイリングホスピタルジャパン」(SHJ)の取り組みが、闘病中の子どもたちや親の励みになっている。5年前に始まった活動は今年、福岡にも広がった。

【青木絵美、写真も】



フラダンサー、miwaさん(右奥)の踊りや歌に合わせて、手の振り付けを楽しむ子どもたち—福岡市東区の九州大学病院で

20日午後、福岡市東区の九州大学病院の小児科病棟にあるプレールーム。福岡県内在住のフラダンス講師とジャズシンガーの女性2人によるユニット「アロアロマミース」が、ハワイアン風の歌と踊りを披露した。「一緒にやってみて」。車いすや母親の膝に座った子どもたちは、音楽に合わせて、魚が泳ぐ様子を手で表現するフラダンスの振り付けに挑戦。ハロウィーンにちなんだ英語のゲームでも盛り上がった。

4歳の男の子はゲームでもらったカードに大喜び。血液関係の病気で入院し、退院後も免疫力が弱いため、幼稚園に通ったり、人混みの中に出かけたりすることが当面難しい。母親(34)は「本当は人と接するのが大好きな子。楽しんでるのが分かる」と目を細めた。フラダンス担当のmiwaさんは「付き添いのお母さんにとっても、少しでも癒やしになればうれし